

研究室探訪

早く泳げる選手の「違い」は何か？ 側屈可動域の測定法を研究。

——どんな研究をしていますか？

私の専門分野は、水泳です。主に、体幹部における側屈可動域の測定法を研究しています。人は泳ぐとき、前屈・後屈のほか、回旋や側屈を行いますが、最後の側屈に関する評価方法は少ないのが現実です。そこで、どのような測定方法を用いれば背骨の動きや体幹部の可動域、身体の柔らかさを評価できるかについて、解析装置を使って研究しています。

——研究の目的は何ですか？

競泳選手のパフォーマンスと側屈可動域を比較し、速く泳げる選手とそうでない選手との差を明らかにし、改善点を選手に提案することを目的としています。

——研究は社会や人をどう「CONNECT」しますか？

水泳がベースの研究ですが、他競技にも活かせる内容です。競技の垣根を越えてさまざまなスポーツを「つなぎ」、競技力の向上に貢献できればと思っています。さらにアスリートに留まらず、高齢者の転倒リスク減少や健康寿命の延伸にもつなげたいという理想も持っています。

——在学生や受験生にメッセージを。

進路を決めたら、悔いを一切残さないように全力で歩んでください。それが自分にとって最高の未来へと歩むとき、新たな出会いやつながりが生まれます。大いに悩み、突き進んでください。



体育学部 体育学科
助教 金子 竜大

創立100周年記念企画

Flashback —あの、歴史的瞬間。

1926年8月31日：校舎(現1号棟)が完成

1925年4月。天理大学の前身である「天理外国語学校」の第1回入学式が実施されましたが、このとき校舎はまだ建築されておらず、天理中学校内を仮校舎として出発しました。新校舎が完成したのは、1926年8月31日。この建物こそが、現在の1号棟です。レトロな雰囲気を残す天理大学1号棟は、約100年ものあいだ、歴史と時代の移ろいを静かに見守り続けてきました。



天理市周辺の名店とその逸品を紹介

THE 天理ゴハン

おしゃれなアイアン家具と本格ハワイアングルメを堪能

溶接業を営むオーナーがオープンした「ZERO ONE CAFE」は、手作りのアイアン家具が並ぶ落ち着いた雰囲気のハワイアンカフェ。人気No.1のロコモコプレートは肉の配合にこだわった弾力あるハンバーグと醤油ベースのソースがマッチし、ごはんが進みます。ピタヤボウルやマンゴースムージーなどのスイーツも充実。秋にはパンケーキとマラサダもメニューに加わる予定！



ZERO ONE CAFE

[ロコモコプレート]: ¥1,200- [ピタヤボウル]: ¥1,580-
[マンゴースムージー]: ¥1,190-
〒632-0016 奈良県天理市川原城町671
近鉄天理線／天理駅 徒歩5分
OPEN: 11:00～16:00(ランチL.O.15:00 デザート・ドリンクL.O.15:30)
定休日: 不定休 ※営業時間は日によって異なる場合があります。

CONNECT

天理大学広報誌

Vol.
01



100th ANNIVERSARY

[100周年事前特集号]

“つながる”が いま始まる





100th ANNIVERSARY
CONNECT

天理大学は、2025年に創立100周年を迎えます。100周年を迎えるにあたり、ローカルな地域社会と世界、在学生と卒業生。過去と現在、そして未来。さまざまな「つながり」を創出し、そのなかで学生の「気づき」を促し、成長へと導く環境を強化します。スマホやネットで、簡単に誰かとつながることができる現代社会だからこそ、あえて今、「つながり」方について考えてみたいと思います。なぜ？なにを？どうやって「つなぐ」のか。これからどんな変化が起きるのか。100周年のコンセプトとして、「CONNECT」「つながる」を、始めよう。」を掲げた天理大学の教職員・学生にさまざまな「CONNECT」について聞きました。

知の探究



世界とつながる。



社会や地域とつながる。



学部学科が つながる。



学生同士が つながる。



卒業生と つながる。



ビジネスと つながる。

WHY なぜ「つなぐ」？



“喜びのSDGs”が、人生を豊かにする。

——人との「つながり」から、私たちは何を学べる？

全ての出会いは、偶然ではなく必然のなせる業。その関係性から学ぶことが成長には欠かせません。実は、人の喜びを自らの喜びとして味わう人生ほど贅沢なものはないと思うんですね。そんな「喜びのSDGs」の先にこそ、自分自身の幸せが担保されるのだと思います。

——海外経験は人生にどんな影響を与えた？

カリフォルニア大学で学士・修士号を修得し米国で長年勤務した経験から、多文化への寛容性は自然と身につきました。一方で多様性の甘受＝平和ではなく、その根っこには「大きな指針」が必要だと痛感しています。例えば、私自身は「ニホリカ人（ニホン×アメリカ人）」を自負しています。ニホンが基盤であることが、変わりゆく世界を渡り歩くうえで安定感をもたらしてくれます。

——100周年に向けた意気込みをお願いします。

「おたすけ心」でのつながりが課題解決につながる、そんな明るい未来に向けて、勢いのある一歩を全学で踏み出したいと思います。

永尾 比奈夫 / 天理大学 学長

人生で影響を受けた本

中山正善『陽気ぐらし』/鳥山明『ドラゴンボール』

好きな食べ物

タコス&プライムステーキ



WHAT-HOW なにを、どう「つなぐ」？

いつ、どこで、誰と誰を結ぶか？ プロデューサーは、あなた自身。



——今の社会に必要な力とは？

グローバル化が進む社会では、多様性に対応する力が求められています。いわゆるマイノリティーの人々は、地域の教育や福祉、医療などから取り残されがちです。こうした場面において、どこで、誰と誰が、どのように「つながる」べきかを理解するとともに、局面を打開するためのプロデュース力が求められています。外国語や異文化を学ぶことは、「つなぐ」力を培う土台となり、実はこの世界が名前も知らない人々の支え合いで成り立っていることを実感できるようになるはずです。

——今までの人生で影響を受けた「つながり」は？

学生時代にオーストラリアや中国大陸を一人旅しました。行く先々で出会った人々から受けたサポートや優しさは、「誰とでも仲良くなれる」というモットーにつながっています。

長森 美信 国際学部 学部長 /
韓国・朝鮮語学科 教授

世界に多すぎるもの

選択肢と情報



困りごとを解決する、 “医療×ビジネス”のCONNECT。



——医療視点でのスタートアップ立ち上げは可能？

臨床検査データの効率的な管理と分析を行うサービスがあれば非常に便利です。がん遺伝子をはじめとするゲノム関連検査は、近い将来コンビニで検体を提出すれば結果が得られるようになるかもしれません。また、高まる在宅看護へのニーズに関連して、病院外における医療サポートへの支援を益々強化するなどのアイデアで貢献できると思います。

——100周年に向けて、医療学部はどうパワーアップする？

今後は人文学部と医療倫理や患者の心理に関する教育や体育学部とスポーツ医学に関する教育を充実させたいと考えています。また、天理よろづ相談所病院との研究と教育の連携をさらに強化していきます。

小松 方 医療学部 学部長 /
臨床検査学科 教授

影響を与えてくれた人

臨床検査技師として勤務していた頃の上司や先輩



知の探究



宗教学×手話。 多様ななかかわりの架け橋に。

——今、熱中していることは？

1年次より、手話の習得に取り組んでいます。手話は聴覚障がいを持つ方だけではなく、耳が遠い高齢者とのやりとりなど、さまざまな場面で架け橋となるツール。手話を通じて、多様な人同士の「つながり」を創出したいです。

岡岡 道喜さん / 人間学部 宗教学科 3年次生

モットー 生きていれば何か良いことがある

高校生のニーズと大学を 「つなぐ」。



——担当する業務内容は？

昨年度まで入学課でオープンキャンパスの企画・運営を担当していました。今年度から所属する学長室企画課では、学長・副学長の補佐業務を務めています。

——どんな風に貢献したい？

天理大学生のキャンパスライフや成長(学修成果)について、高校の現場へより具体的に伝えていく体制の強化を進めています。学生が本学の学びを通じて自分らしい生き方を実現できるよう、一人ひとりのニーズに合わせた支援を行う体制「エンrollment・マネジメント」の構築に向けて、これからも尽力したいと思います。

森川 智美 / 学長室企画課 課長

モットー 何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く



FUTURE 「つながる」 未来に向けて。



“利他的”な感性を磨き、必要とされる課題を見つける。



—— 地域や人のかかわりのなかで学ぶ意義は？

SNSを中心に、他者への思いやりを欠いた自己主張や行動が問題になっています。そんな時代だからこそ、人と人とのやりとりから大切な感性を学ぶ。この感性はこれからの社会で活かせる力になります。

—— 今までの人生で影響を受けた存在は？

学生時代に提出したレポートを「これにはあなたが生涯大事にすべき心が記されている」と、製本してくださった恩師がいます。その後も、恩師がお亡くなりになるまで家族を含めての交流が続きました。何を大切に生きるべきかを私に教えてくれた先生です。

山中 秀夫 人文学部 学部長 / 社会教育学科 教授

世界に足りないもの 謙虚さと慎み



“はばたいた”あとも、 卒業生が帰れる場所に。



—— 今号より『CONNECT』にリニューアルした広報誌。

以前の名称『はばたき』に込めた想いは？

国際学部生だった2007年、広報誌の名称に関する公募に応募しました。誰もが、いつかはここで学んだことを糧に、社会へと巣立っていく。そのイメージに、「貢献性」の想いを重ねて「はばたき」と名づけました。来年は、ついに創立100周年。職員として、皆さんが将来帰ってこられる場所でもある本学を守り支えていきます。

松下 誠 / 入学課 主事

落ち込んだときまずすること

基本、落ち込まない。
強いて言うなら「感謝」する。



競い合い、たたえ合う。

感動がコミュニティを「つなぐ」。



—— 体育やスポーツには、どんな力がある？

スポーツは世界共通の文化。言葉を介さずに交流できて、その感動を、映像や記事などでも共有できるのがすごいところ。そして、スポーツは相手や仲間、審判がいなければ成立しません。たったひとりでは成り立たないのは、私たちの社会も同じですね。

—— 今までの人生で影響を受けた存在は？

学生時代のバドミントン部の恩師。「世界一になれ」「一流になれ」と、声をかけ続けてくれました。実際に一流になるのは難しくても、努力をすることが大切。一緒に背伸びして成長しましょう。

中谷 敏昭 体育学部 学部長 / 体育学科 教授

影響を受けた書籍 『坂の上の雲』『帝王学』

「好き」に打ち込むことが、 誰かの生きる力に。

知の探究



—— 歴史から学べることは？

「過去」について知ることは、現代の私たちに多くの示唆を与えてくれます。私が研究するのは戦国時代の三好長慶や松永久秀についてですが、彼ら日本中世人の精神からは、相互尊重の関係が学べます。それは今の社会においても、不用意なハラスメントを回避するヒントになるかもしれません。

—— 今までの人生で影響を受けた「つながり」は？

神戸生まれの私は、1995年大学入試センター試験を受験した直後に、阪神・淡路大震災で被災しました。その後、当時のオリックスブルーウェーブが「がんばろうKOBÉ」を掲げて優勝。困難な状況でも自らの「好き」を貫いた人々が周囲を勇気づけたことに、強い感銘を受けたことを覚えています。誰しも、いつ・どんなことで命を落とすかわかりません。悔いなく人生を送るために、「好き」なことに思いっきり取り組んで良いのです。学生の皆さんと、将来一緒に仕事ができたらうれしいです。

天野 忠幸 / 人文学部 歴史文化学科 教授

人生で影響を受けたドラマ 『忠臣蔵』(1985年)



孤立無援の人が増える今、 異文化間をつなぐ力は重要。



—— 今の世の中に必要なものは？

コミュニケーションが間接的になり、孤立無援の人が増えています。だからこそ今、人や文化の「つながり」を強化する外国語の習得は重要です。

—— 今までの人生で影響を受けた「つながり」は？

私は日本哲学と西洋哲学の比較研究をしています。東洋哲学に興味を持ったきっかけは、2007年にスペインの母校で聞いた澤井義次先生(天理大学名誉教授)の講演。その後、博士課程で天理大学へ交換留学し、澤井先生のゼミ生になりました。先生がいなければ今の自分はなく、感謝してもしきれない気持ちです。

J.ロペス / 国際学部 外国語学科 准教授

影響を受けた書籍 『自省録』『不穏の書』『攻殻機動隊』



リーダーシップで、 対話を「つなぐ」人になれ。



—— 今の社会で、スポーツが発揮する力とは？

スポーツには、心身ともに健康で文化的な生活を支える「場」を創り出す力があります。今は文字で会話をする人が増えていますが、対話の重要性は揺るぎません。スポーツが養うコミュニケーション能力やリーダーシップは、どんな職業でも役立つはず。

三幣 寛志 / 硬式野球部監督(総合企画部 総合企画課)

モットー 誠の心



STUDENT VOICE CONNECTするためのアイデア
100周年を機に、もっと増えたらいいなと思うものは？

仕切り付きの自習室

紀本 麻衣さん
国際学部 外国語学科
中国語専攻 3年次生



夜まで勉強したいので、 学食に夜ご飯

松田 愛子さん
人間学部 人間関係学科
臨床心理専攻 4年次生



3つのキャンパスが 垣根を越えてつながれる 授業やイベント

木下 紫真さん
人間学部 人間関係学科
社会福祉専攻 4年次生



今につながる、歴史がある。 天理大学ヒストリア

2025年、天理大学は創立100周年を迎えます。

校内にそびえる附属天理図書館に、附属天理参考館。学生たちが学ぶ学部や学科。

今や本学になくってはならない大切な要素ですが、これらは最初から存在していたわけではありません。

1925年、大正末期にゼロからスタートした天理大学の歴史を振り返りながら、

本学が誇る強みや魅力がどんな風に形づくられたのかを改めて探ります。

1925年 日本初の 私立外国語学校として設立。

天理大学は、1925年、日本初の私立外国語学校として設立されました。創設者は、中山正善・天理教二代真柱（1905～1967）。その根本にあったのは、天理教海外伝道者を育成し、外国語教育を通じて豊かな国際感覚を持つ人材を育成したいとのゆるぎない想いでした。



▲「天理外国語学校落成記念」の絵葉書



▲校舎を模した置物

画期的だった、男女共学と朝鮮語教育。

天理外国語学校は男女共学制を取り入れていましたが、これは当時の社会的な価値観を考えれば、非常に画期的でした。また、欧米文化の受容に一边倒であった文化的風土のなかで近隣のアジアに目を向け、私学で初めて朝鮮語教育を実施したことも注目したい点です。

“世界的視野”で 未来を捉えた、 創設者の先見性。

今でこそ、グローバル化における多文化理解の大切さが国内外で叫ばれていますが、1925年は第二次世界大戦前。思想統制が行われ、自国文化の優位性を強調することが当たり前だった時代のなかで、これからの未来を拓く鍵として「多文化への理解と寛容さ」を掲げた創設者の先見性と信念が感じ取れます。創設者は当時20歳。東京帝国大学に入学する直前でした。

附属天理図書館と 附属天理参考館は、 こうして生まれた。

大正初期より天理教内に図書館設置の必要性がうたわれはじめ、1918年、天理教青年会に図書館設立事業がたちあがり、1925年「天理図書館」が誕生。（参考：『天理図書館四十年史』）また、創設者自ら海外事情の調査を行い、世界各地の民俗資料を収集したものが、現在の附属天理参考館へと発展。附属天理図書館・附属天理参考館は、「単に語学力を身につけるのではなく、それぞれの国の文化を深く理解してほしい」との創設者の想いが形になった施設です。



▲正面に4本の木があった頃の図書館。



▲現在の図書館。当時から残る2本のヒマラヤ杉

歴史の重みを感じる、 すごいモノ。

日本を代表する図書館として、世界的に著名な図書館リストにも名を連ねる附属天理図書館。歴史的な建造物としての価値も高く、2023年には登録有形文化財に登録されています。一般閲覧を開始した1926年時点で2万6千冊だった蔵書は、現在なんと150万冊。源氏物語や竹取物語の古写本のほか、夏目漱石の『三四郎』をはじめ、近代文学者の自筆原稿も所蔵されており、現時点で国宝6点、重要文化財87点、重要美術品66点が所蔵されています。

スポーツ振興への想い。

創設者は柔道やラグビー、野球などのスポーツを愛好し、さまざまなスポーツの普及や振興に貢献したことで知られています。特に、柔道やバレーボールを1964年の東京オリンピックから正式な競技種目に採用されるよう尽力したことは特筆に値します。こうした理念が、後の体育学部や、多くの人に勇気や感動を与える強豪クラブチームの誕生の基盤となっています。



西日本初となる、体育学部誕生。

オリンピックメダリストや世界のトップアスリート、指導者を多数輩出してきた天理大学。1955年には、西日本で初となる体育学部が設置されました。一流選手の養成における輝かしい伝統と実績は、一夜にして始まったわけではありません。100年前から、スポーツ振興に取り組んできた創設者の想いが現在へとつながった結晶こそ、体育学部です。

天理よろづ相談所病院の原点。

医療学部の実習先である天理よろづ相談所病院。天理よろづ相談所病院は、1935年に天理教信者の厚生施設として開設された「よろづ相談所」に端を発します。1966年には「財団法人天理よろづ相談所」：別称「憩の家」として開設。以降、地域医療を支えてきました。この「憩の家」を開設したのも、中山 正善・天理教二代真柱（天理大学創設者）です。

気づけば、40年以上。

母校とかがわれたことが誇りです。

私が天理大学に在籍していたのは、1982から1986年。在学中は東西礼拝場の建設期間で、よふぼく会の活動の一環で東礼拝場の階段の石を積みあげたことを神殿に行くたびに思い出します。あれから長い時間が経過しましたが、意外にも学生の服装は今とあまり変わりません。一方で、天理大学のスポーツクラブ活動は、多様な種目が当時より本当に強くなりました。これが一番変わったところかも知れません。退職が近づいていますが、100年間のうちの40年以上、本学にかかわってこられたことを誇りに思い、感謝しています。

岡田 正彦 / 人文学部 宗教学科 教授

大学時代に好きだったバンド サザンオールスターズ

天理外国語学校
(男女共学)設立
普通選挙法公布

附属天理図書館
設立

附属天理参考館
設立

よろづ相談所
開設

オリンピック
聖火リレー開始

第二次世界大戦
勃発

太平洋戦争
終結

天理大学
開学

朝鮮戦争
勃発

体育学部
設置

東京オリンピック
開催

「憩の家」
開設

天理高等看護学院
天理衛生検査技師学校
開校

第一次
オイルショック

サッカーW杯
日韓共催

天理医療大学と
統合

天理医療大学
開学

欧州がユーロを
導入

男女雇用機会
均等法施行

創立
100
周年

15学科へ
再編

学びの場が増える、広がる。 天理駅前に、 サテライトキャンパスが誕生

キャンパスの垣根を越えて、地域のなかで実践的に学ぶ——

そんな開かれた大学の在り方をめざし、

天理大学はこれまでも挑戦を続けてきました。

そして今年、創立100周年に向けた記念事業の一環として、

新たに「サテライトキャンパス」が誕生しました。

2024年4月より、天理駅前のコフファン施設・南団体待合所・

「i CONNECT Shop(アイコネクトショップ)」という

3つの施設をサテライトキャンパスとして位置づけ、

学びの場を広げ、地域社会とつなげることで、

多様な「つながり」を生み出す拠点としていきます。

株式会社モンベルとのコラボレーション

コフファンにモンベルストア&カフェがNEWオープン

アウトドア用品の企画・製造・販売を行う株式会社モンベルと天理大学は、2017年より包括連携協定を結んでいます。そして、今回サテライトキャンパスの設置にあたり、新たに「天理大学・モンベル共同体」を結成。2024年8月、コフファンにモンベルストアと併設のカフェをオープンします。ストアではアウトドア用品の販売のほか、「山の辺の道」など天理市の資源を活かした観光商品の提供も実施。学生は観光プランの企画や現地ガイド、カフェのメニュー開発などに取り組みます。

大学と協働での事業は弊社にとって前例のない取り組みです。地域に開かれたサテライトキャンパスやフィールドワークでの学びを通じて、学生たちは足元にある資源に気づくことができるはずです。私たちもフレッシュな感性を取り入れ、地域活性化につながるアイデアを学生とともに具現化していきたいと考えています。

株式会社モンベル
米田 浩太郎さん



天理の魅力を伝える 「i CONNECT Shop」



天理駅前広場に、学生主体のアンテナショップがオープン

この夏、天理駅前広場のアンテナショップ(旧コフファンショップ)が、「天理大学 i CONNECT Shop」へと生まれ変わります。「i CONNECT Shop」では、天理市の特産品や天理大学関連グッズのほか、学生が企画・開発を手掛ける商品も販売します。今後は店舗運営にも学生が携わり、天理市と本学の最新情報を発信していきます。2024年5月25日にプレオープンを終え、馬術部の馬が実際につけていた蹄鉄(ていつ)や、2024年度 西日本インカレで優勝を果たした男子バレーボール部のグッズなどが人気を集めています。



天理の街を元気にする 「てんだいフェスタ」

駅前のマルシェを 学生の力でパワーアップ

昨年度まで開催されていた「ココファンマルシェ」が、天理大学による「てんだいフェスタ」としてリニューアル。2024年6月23日には第1回マルシェが開催され、天理市の特産品や旬の野菜、クラフト作品のブース、キッチンカーなどが出店しました。天理大学学生自治会「心光会」によるブースも好評で、若さと活気がある1日となりました。「てんだいフェスタ」は今後も月に1回程度の開催を予定しています。



キャリアに役立つ「特別講義」を開講

キャンパスの“外”で実践的に学ぶ、新しい試み

天理市内の観光と農業に貢献できる人材の育成をめざし、今年度から南団体待合所で全学部共通のユニークな特別講義を開講。株式会社モンベルの社員や農業関係者などの外部講師も招き、マーケティング・経営の視点も学びます。駅前広場の各施設を活用したインターンシップも実施し、店舗の経営や商品開発、観光案内などの実践力を磨きます。秋からは一般市民も受け入れ、学生と市民がともに地域振興に取り組みます。



先生はもちろん、学外の方々からも観光に対する視点を聞くことができ、専攻での学びや将来に活かせる経験となりました。さまざまな立場の方とかわり、地域のなかで学べるのは新鮮で、普通の授業にはない魅力です。これからサテライトキャンパスが地域の方々とともに学ぶ場になっていくのが楽しみです。

人間学部 人間関係学科 生涯教育専攻 2年次生
瀬川 芹華さん



地域とつながりながら 学び、実践する その経験を 人生の財産にしてほしい。

岡田 龍樹 副学長 / 社会連携センター室 室長

Q.サテライトキャンパス設置のきっかけとは？

A. 天理市の並河健市長より、「天理駅前広場にて人材育成や地域活性化に向けて協働できれば」とのお声がけをいただいたことがきっかけです。この提案に本学と株式会社モンベルが賛同し、今年4月に「天理大学・モンベル共同体」を結成。学内に「社会連携センター室」も新設し、産官学で地域活性・地域貢献に取り組んでいます。

Q. 学生が学べることは？

A. 人とのつながりは人生を豊かにし、世界を広げてくれるものです。サテライトキャンパスで地域の多様な年代・立場の方々とかかわる経験は、単に知識やスキルを蓄えるだけでなく、人生の財産となるはずです。

Q. 今後の展望は？

A. 次年度以降は特別講義を受講した学生を中心に、実際にインターンやアルバイトとして活躍する学生の姿が見られると思います。また、観光や農業、産業に携わる卒業生や企業、事業者の皆様との交流や連携をさらに広げ、より実用性の高い講義を行っています。

Q. 創立100周年に向けて、今後予定している企画は？

A. 創立100周年を記念した大同窓会の企画を進めています。若い世代の卒業生と学生がつながることができるよう、大学祭と同時開催する予定です。この企画を通して、また新たな連携が生まれることを、私自身も楽しみにしています。

サテライトキャンパスは、何を「つなぐ」？



「地域」と 大学がつながる

特別講義やイベントで、地域を巻き込んだまちづくりを加速させます。



「学生同士」「卒業生」の 絆が深まる

卒業生を外部講師として招くことで、学生同士はもちろん、卒業生との絆を深めます。



「世界」の 人が集まる

「観光コンシェルジュ」の育成や情報発信を通して、海外へのPRをさらに強化します。



「学部」を超える 学びを実現

学部学科の枠を超えた講義やプロジェクトで、物事を多角的に見る視点を養います。



「学び」× ビジネス視点

マーケティングや経営の知識をプラスすることで、「好き」を仕事にする力を身につけます。

サテライトキャンパス特別講義レポート

● 春学期:天理大学特別講義7 [カフェ経営と農業イベント企画] ● 秋学期:天理大学特別講義8 [地域と農業]

担当教員:人文学部 社会福祉学科 森元 伸枝 教授

「食」と「農」を通して地域の魅力を再発見

Q.授業の目的は？

A.高齢化や跡継ぎ不足など、日本の農業はさまざまな課題を抱えています。この授業の特徴は、「食」や「農」を通じた天理市の魅力発信を、「ビジネス」の視点で考えていくところです。カフェ経営や商品開発を通じて、地域の魅力を発信する方法を実践的に学びます。

Q.どんな風に学ぶ？

A.春学期は「カフェ経営」をテーマに、経費や人件費の計算方法などの経営学を基礎から学び、学期末には「事業計画書」を作成。秋学期は「地域と農業」をテーマに、天理市の地産品をブランド化するための「物語」を学生主体で考えます。行政や企業、農業従事者とも協働する機会を通じ、対人能力にも磨きがかかること間違いなしです。



● 春学期:天理大学特別講義5 [観光コンテンツの造成と発信] ● 秋学期:天理大学特別講義6 [観光コンシェルジュの育成]

担当教員:人文学部 総合教育センター 森田 実 特任准教授

学生主体のアイデアで、 天理をより魅力的な観光都市に

Q.授業の目的は？

A.「オーバーツーリズム」が社会問題となる一方、天理市のように魅力があるのに知名度が低い地方都市も多数あります。この授業では、旅行会社に28年勤めた経験を基に、観光を通じて天理市を盛り上げるための方法を学生たちと協力しながら考えていきます。

Q.どんな風に学ぶ？

A.春学期に天理市内をフィールドワークで巡り、学期末に観光資産を活かした旅行商品の企画やプレゼンテーションを行います。秋学期には、天理市の観光資源や観光ルートを語

れる「観光コンシェルジュ」の育成を行います。観光業界への就職にはもちろん、地域創生を支える公務員など、さまざまな進路に役立つ力が身につきます。

